

令和2・3年度 行方市立麻生東小学校 校内研究 実践報告書

1 研究主題

見通しをもって学習に取り組み，学びをいかすことのできる児童の育成
～評価からの授業改善を通して～

2 主題設定の理由

実態調査の結果，算数授業において，以下の点について本校児童に課題が見られることが明らかとなった。

- ・本時の課題に対して，既習事項をいかした見通しをもつこと。
- ・学習したことを，別の問題や課題，日常生活にいかすこと。

これらのことから，本校児童は，算数授業において，生きて働く知識・技能を獲得できていないのではないかと考えた。

そこで，評価から授業を改善し，具体的なゴールの姿を設定した上で授業づくりを行えば以上の課題が改善されるだろうと考え，本主題を設定した。

3 研究のねらい

評価からの授業改善を通して，見通しをもって学習し，学んだことをいかすことができる児童の育成を目指す。

4 研究仮説

教師が授業において以下の手立て適切に行えば，児童は生きて働く知識や技能を獲得し，見通しをもって学習に取り組んだり，学んだことを他の問題や日常生活にいかしたりすることができるようになるであろう。

- ・授業前の手立て：ゴール時の姿を具体的な想定
- ・授業時の手立て：ICTの効果的な利用 学びを広げたり深めたりするための効果的な発問・問い返し

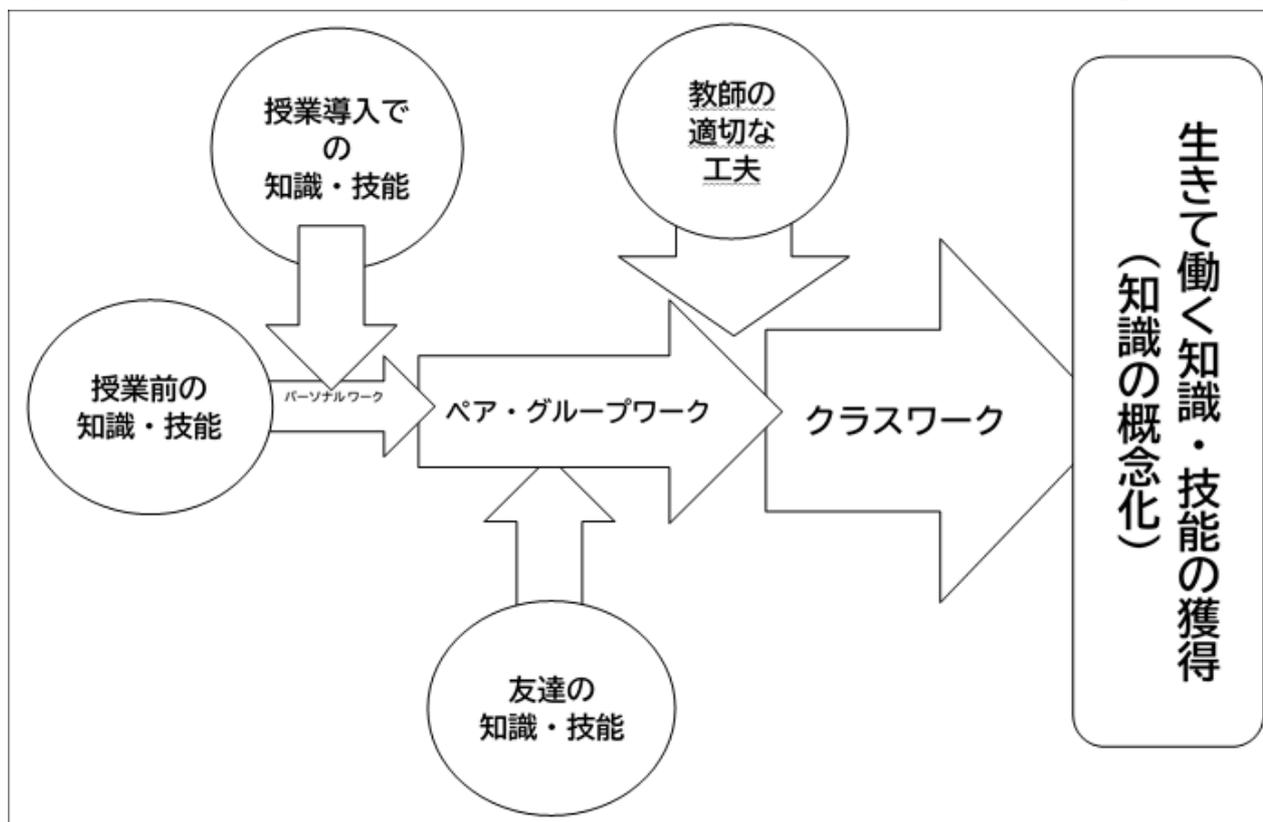


図1 生きて働く知識・技能の獲得（知識の概念化）までの流れ

5 数値目標と検証の方法

以下の数値目標について、2月にアンケートを取り検証する。

- ・児童：見通しをもって学習に取り組むことのできた児童90%以上
- ・教師：全ての教科において、授業スタイルを意識して授業を行った教師100%以上

6 研究の実際

(1) 授業スタイルの改善と共通理解

令和元年度までの授業スタイルシートは、文章による記述や矢印が多く、複雑な配置となっているため、活用上の課題が見られた。そこで、授業スタイルシートを改善してシンプルにし、共通理解を図った。改善したことは以下の4点である。

- ・授業前後における児童の姿をイラスト化し、目指す姿を端的に捉えられるようにした。
- ・授業の各段階において、指導すべきポイントを精選し、「つかむ」「考える」「広げる・深める」「振り返る」のキーワードで示した。
- ・対話場面における指導のポイントを具体化し、スタイル中央にまとめて示した。
- ・ゴールから授業を設計できるよう、授業の順序や関連を数字や矢印で示した。

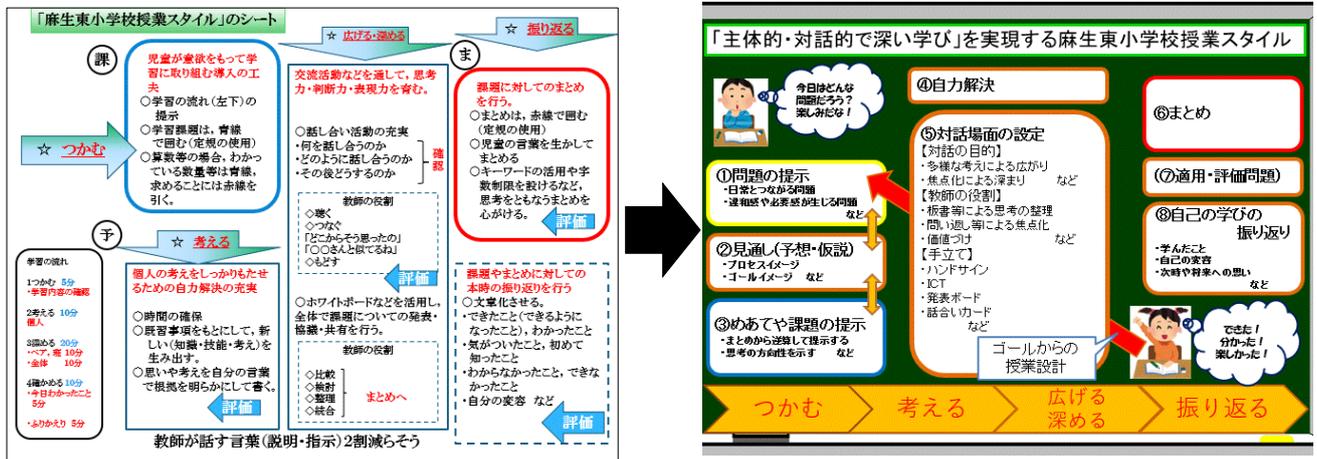


図2 令和元年度授業スタイルシートと令和2・3年度授業スタイルシートの比較

(2) 目指す学びの具体化と共有化

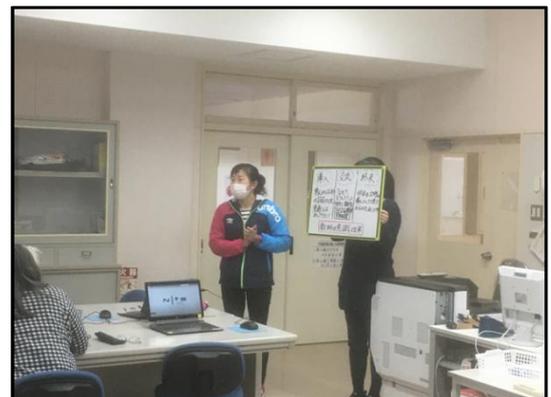
全教員がゴールイメージを共有する必要があると考え、以下の全体研修を実施した。

① 目指す授業像を共有する研修の実施

「主体的・対話的で深い学び」を理解し、その実現のための授業づくりの方向性を明らかにすることをねらいとし、NITSの講義動画(校内研修シリーズNo4「新しい学習指導要領において期待される学び」)を活用した研修を実施した。まず教員個々人の授業課題を振り返って現状を捉え、その後、動画を視聴し、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業とはどのような授業かを協議した。

表1 全体研修①のねらいと実施時期・活動内容

ねらい	○「主体的・対話的で深い学び」を理解すること ○授業づくりの方向性を明らかにすること
時期	4月上旬
活動内容	①授業での課題を振り返る(教員個人ごと) ②NITSで配信されている講義動画(校内研修シリーズNo4「新しい学習指導要領において期待される学び」)を視聴する ③「主体的・対話的で深い学びを実現するための授業とは？」という議題で協議を行う ④まとめとリフレクションを行う



② 目指す児童の姿を共有する研修の実施

児童の学びの姿を具体的にイメージするために、茨城県教育情報ネットワークで配信されている授業名人の授業動画（3年生算数「いろいろなわり算」）を活用した研修を実施した。「主体的・対話的で深い学び」を実現している授業を実際に観ることが必要だと考えた。学びの姿チェックリスト（NITS 公式サイト内におけるアクティブ・ラーニング授業実践事例を参考に作成）の項目と照らし合わせながら動画を視聴し、その後、チェックリストの各項目に合う具体的な姿を協議し文章化した。最後に、本校の目指す「主体的・対話的で深い学びの姿」の定義づけを行った。

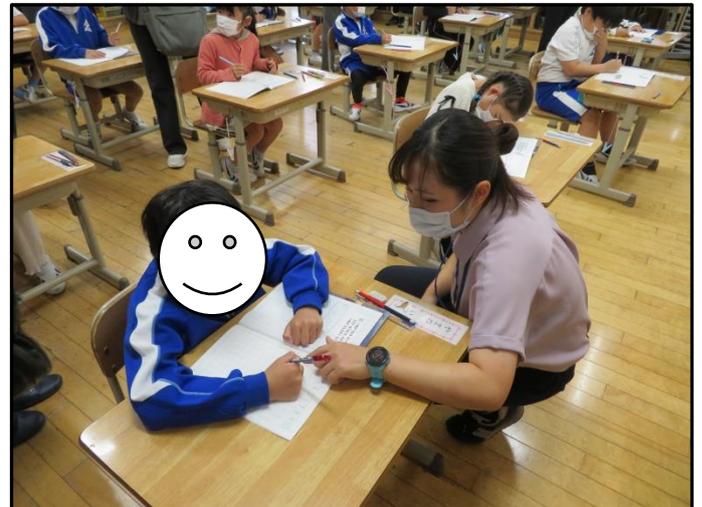
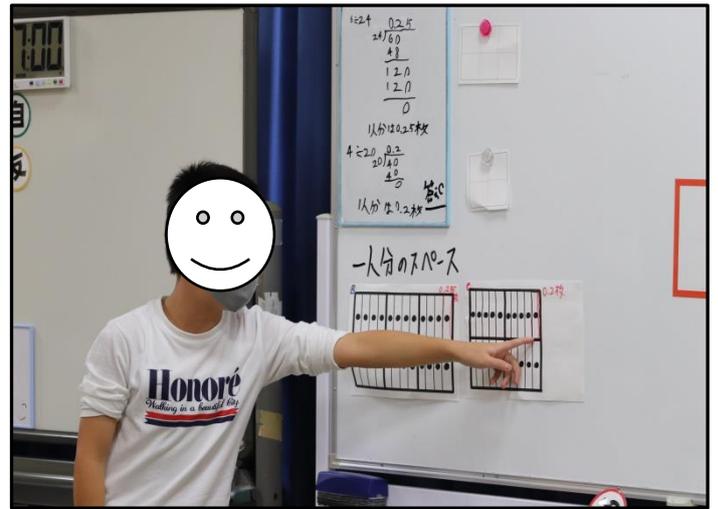
表2 全体研修②のねらいと実施時期・活動内容

ねらい	○目指す児童の学びの姿を具体的にイメージできるようになること
時期	5月下旬
活動内容	①学びの姿チェックリストの視点で、茨城県教育情報ネットワークにて配信されている「授業名人による授業動画(小学校3年生算数)」を視聴する ②学びの姿チェックリストの各項目について具体的な姿を協議する ③本校における「主体的・対話的で深い学びの姿」を定義づける ④まとめとリフレクションを行う



(3) 授業実践

令和2年度学力向上授業研究会では、2年生が単元「三角形と四角形」にて、5年生が単元「単位量あたりの大きさ」にて授業を実践した。また、令和3年度学力向上研修会では、1年生が単元「3つのかずのけいさん」にて、4年生が単元「2けたの数でわる計算」にて授業を実践した。



7 研究の成果と課題

2月に実施した校内研究アンケートにおいて、以下の数値が見られた。

- ・児童：見通しをもって学習に取り組むことのできた児童95.8%
- ・教師：全ての教科において、授業スタイルを意識して授業を行った教師100%

〈研究の成果〉

- ・ゴール時の姿を具体的に設定することができるようになってきた。また、評価規準の考え方や評価のタイミング等も明らかになった。
- ・「見通しをもたせる」ために、授業時の導入にいろいろな工夫が見られ、それらを先生方が授業によって使いわけることができるようになってきた。
- ・授業の中でICTの活用が進んだ。
- ・授業スタイルについての理解が深まった。(特に算数において)

〈研究の課題〉

- ・ICTをより意図的・効果的に活用する方法
- ・児童中心の授業展開
- ・つまづいている児童への手立て
- ・授業スタイルの日常化
- ・「広げる・深める」の質の向上

8 令和4年度校内研究の方向性

令和2・3年度の研究の課題をふまえ、令和4年度は次のような方向性で研究を進めようと考えている。

- ・授業スタイルを、より多くの教科・領域で実施・改善する必要があるため、研究する教科を国語・算数・理科・社会の4教科に拡大する。
- ・ゴール時の児童の姿をより具体的に想定するとともに、つまづいてしまいそうな児童の姿・場面も想定し、それに対する手立てを検討する。
- ・ICTをより意図的・効果的に取り入れる。
- ・児童が主体的に学ぶ授業を展開にできるよう更に改善をすすめる。